

# TTCnews



一般財団法人東海技術センター

設立50周年  
記念号



師走の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、弊社は、2021年10月30日をもちまして、設立50周年を迎えることができました。これもひとえに皆様方の厚いご支援と温かい激励の賜物でございます。ここに心よりの感謝を申し上げます。

1971年に現在の名古屋市名東区に建設された建屋は、若干老朽化したものの現在も事務棟・分析棟として活用しています。紹介する写真は建設当時のものですが、周辺に住宅がほとんどなく、住民よりタヌキの方が多いのではと思われていました。その後、事業の拡大に伴い建屋は4号館にまで増設され、2017年には瀬戸市に事業規模の3分の1に当たるハイパーラボを開設するに至っています。今後とも倍旧のお引き立てを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

理事長 平井 修司

Vol. **48** Check Point !!

2021年10月30日で、設立50周年を迎えたTTC  
その足跡（あゆみ）をダイジェスト版でご紹介します！

# 1970年代（設立期）

## 環境保全を使命として出発

公害問題が世間の注目を集める中、1968年に大気汚染防止法が、1970年に水質汚濁防止法がそれぞれ制定され、該当施設を稼働させている工場・事業場等は排出源となる排ガスや排水に含まれる有害物質等の排出濃度を把握し、公害防止に取り組む必要性が高まってきました。

そこで、名古屋通商産業局のイニシアティブの下、愛知、岐阜、三重、名古屋の3県1市、東海地区の民間企業が一致協力し、財団法人東海技術センターの設立準備を進め、1971年9月10日に名古屋商工会議所内に仮事務所を開設しました。初代理事長には新東工業株式会社会長の永井嘉吉氏が就任し、同年11月5日に事業を開始しました。

1972年に現在の名古屋市名東区に鉄筋三階建てのセンター事務所（1号館）が完成し、名古屋商工会議所から移転しました。当時、敷地周辺には建物がなにもなく、昼食を食べるお店探しで苦労したとのこと。開設当時、職員数はたった11名でのスタートでしたが、分析機材は充実しており、報告書自動作成用の最新コンピューターも導入していました。



# 1980年代（成長期）

## 技術力の向上と付加価値の創造

産業公害型の問題が一段落してくると、都市生活型の環境問題として、自動車排ガスによる大気汚染、公共用水域の生活排水による水質汚濁や富栄養化、近隣生活騒音や工事騒音・振動等の現況把握を目的として実施する環境調査や、土地開発に伴う動植物等への影響を把握する自然環境調査が社会問題化してきました。

土地開発事業が各地で盛んに進められた時期には、内陸工業団地候補地に対し、立地可能性を調査する環境影響調査や、ゴルフ場開発に伴う環境アセスメントなどに取り組み、現地調査手法や予測手法など環境調査におけるコア技術も確立されました。1984年には、東邦瓦斯株式会社相談役の薦田国雄氏が第二代理事長に就任しました。



# 1990年代（進展期）

## 公益法人としての役割を追及

当時手掛けた環境アセスメントは、食肉卸売市場新設事業を始めとする名古屋市発注の業務に数多く携わり、予測・評価に関する多様な技術とともに、住民説明会や委員会などに対応する環境コミュニケーションの技術が進展した時期となりました。

ダイオキシン類問題が社会的に大きな関心事になり、2000年のダイオキシン類対策特別措置法の施行に合わせて、新東工業株式会社と連携してダイオキシン類分析を行う三河支所を開設しました。

この当時、公益法人として、海外からの技術研修生の受け入れや環境問題講演会を定期的で開催し、中部経済産業局の指導の下、環境調査分析事業で培った技術を社会的な環境貢献事業への活用や、外部機関との連携を図り、技術革新や新事業開発にも積極的に関与していくこととしました。

1998年には、東邦瓦斯株式会社相談役の小川進氏が第三代理事長に就任しました。



実験ビオトープ (TTC敷地内)

# 2000年代（変革期）

## 公益法人から一般財団法人へ移行

2004年、愛知県の事業を引き継ぐ形で豊橋市内に東海技術センター三河試験所を開設。2005年に、東邦瓦斯株式会社相談役の清水定彦氏が第四代理事長に就任しました。2009年には所内に「公益法人制度改革検討委員会」を立ち上げ、一般財団法人へ移行を2011年4月に完了しました。

2005年は石綿（アスベスト）が社会問題となり分析の依頼が殺到、以前から分析技術や設備機器を整備していたため比較的迅速に対応することが出来ました。2010年には、新東工業株式会社会長の平山正之氏が第五代理事長に就任しました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災による放射能汚染事故に関連し、大至急放射能分析を開始。2017年には瀬戸市にハイパーラボを開設、品質評価事業部が自動車関連企業に対応する出先試験所として九州試験所（佐賀県鳥栖市）を開設。2017年には、新東工業株式会社会長の平井修司氏が第六代理事長に就任しました。



～さらなる躍進に向けて～

# 設立50周年 (2021年10月30日)



社内記念式典:10月29日開催



新Vチャレンジ標語

「生み出そうVチャレンジで価値の創造  
発揮しようマネジメント力」

◎TTC チャレンジポイント

お客様との接点作り

1. お客様から新たなニーズを拾い出す。振り出す  
お客様ニーズの把握とあるべき未来の課題を見つける  
顧客満足向上に繋げる  
→ お客様の多岐にわたるニーズ、サービス提供の幅、課題で学ぶ
2. 中核業務の強化  
業務プロセスの改善と効率化、サービス提供の幅、課題で学ぶ
3. IT活用で業務効率を向上  
お客様のニーズに応えるためのIT活用、TTC独自のIT活用  
プロセスやIT活用による業務効率化、新たなサービス  
提供と顧客とのつながり

◎TTC チャレンジポイント

既成概念を捨てる

4. 新技術  
他の社員の経験より、人が学ばない、スロウリー  
新しいサービスの開発と提供、サービスの提供を大切に  
顧客満足向上に繋げる
5. 働き方改革  
TTCは今年で40周年を迎え、40年間にわたる歴史と実績がある  
成長期が続く企業として、社員や顧客のニーズに  
フレキシブルに対応し、自社の力で成長の機会  
を提供する
6. 経営改革  
経営改革、人事制度、給与制度など  
40年間の歴史と実績を踏まえ、新たなサービス  
提供と顧客とのつながり

## 思い出アルバム

職員の企画による日帰り旅行や宿泊旅行  
(海外含む)を実施してきました。

